

STOP WATCH

25th Anniversary

スタッフアルファ

25周年記念号



ストップウォッチ次回号表紙をかけた

SAC総選挙

ポスター掲示場

詳しくは、裏面をご覧ください。



Web投票締め切り

9月10日(火)

注意

1. 候補者は、ポスターを指定された番号の区画にはってください。
2. SAC総選挙の候補者以外の方はこのポスター掲示場を使用できません。
3. この掲示場を壊したり、はられているポスターを破いたりすると法律によって罰せられます。
4. この掲示場の前には駐車しないでください。

スタッフアルファ選挙管理委員会

私の背中に、
ついて来なさい。
新卒一期生
菊地このみ

アルファは25歳
メイも25歳
いわさき めい
岩崎光

もう「新人」とは、
言わせない。
まっながかすみ
松永佳澄

MAIKO HATTORI
表紙ハ、アタシデ決マリ。
目指せ
返り咲キ
秋吉恭平

入社6年目でも、
まだまだ「お手」を振るって
アルファイチの
お祭り男
あき よし きょう へい
秋吉恭平

表紙を
変える。
きむら はるか
木村春香

アオイスマイル満開
せき もと あお けい
関本蒼唯

KANON
Mitsuno
三野佳音
前号裏表紙を飾った
スタッフアルファの
朝ドラ女優。
主役の座は渡さない。

絵本から
飛び出した
主人公
いしだもえ

10

時代を越えた
アイドル
たなか りほ
田中里穂

当社の
私が握っています。
部長
さか もと ひろき
阪本ひろき

株式会社スタッフアルファコミュニケーション

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西6-9-12 西葛西トーセイビル 4F TEL. 03-5674-7837 FAX. 03-5696-6341 <http://www.staff-alpha.co.jp>

2019年9月21日 スタッフアルファコミュニケーションは25周年を迎えます。

残暑お見舞い申し上げます。

各社様に於かれましては日頃よりご愛顧いただき心より感謝を申し上げます。
おかげ様を持ちまして弊社も創立25周年を迎えることができました。これはまさに日頃よりご厚情をいただいているお取引先様と歩んできた大きなマイルストーンと思っております。この会社の歴史を辿りますと創業の頃よりお取引頂いているクライアント様、協力会社様もいれば、ごく最近、ご縁を頂いたお取引先様も少なくありません。ただ、このスタッフアルファコミュニケーションという会社に寄り添って頂いた企業様はもう数百社に達しており、それだけ社会にお世話になってきたのだと改めて感じる次第です。
25年という年月は面白いもので、その頃まだ生まれていな

かった社員が今、この会社に在籍しているという世代差があるわけで、若手社員と幹部は親子の年齢差です。決してベテランぞろいの組織ではございませんが、四半世紀を生き抜いてきたという企業自身のキャリアや個性はこの会社の武器として、そして得意技として生かせると信じています。この会社の実力、そして魅力を「25年の真価」と捉え、いよいよ皆様にその真価を発揮しようというやる気に満ちております。そして今後も皆様と共に令和という新時代を駆け抜けていく所存でございます。どうぞ今後ともスタッフアルファをよろしくご厚意申し上げます。末筆ではございますが皆様のますますの多幸とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

令和元年 8月盛夏 代表取締役 松山洋介

特別企画

スタッフアルファTOP対談

25周年を迎えた今、当社の「これまで」と「これから」を、役員5名が熱く語り合いました。



<p>取締役 阪本 明裕</p> <p>経理・財務を得意分野。お堅いメーカーからチェーン展開している外食産業へ転職。同社管理部部长を経て、当社の管理部部长として入社。その後取締役に就任。特技は早寝早起き。ゴルフ復活を目指して、肉体改造中。</p>	<p>取締役 富田 真吾</p> <p>スポーツイベント業界から総合イベント・SP業界を経て、約30年間イベントの企画・制作・運営等幅広く携わってきた。趣味はスポーツで浅く広くオールジャンル。ロックバンドQUEENをこよなく愛す。</p>	<p>代表取締役 松山 洋介</p> <p>会社員時代、広告制作会社にてイベント制作・演出の経験を経験、1994年に当社を設立。イベントプロデューサー、そして演出家として当社を牽引してきた。近年は青山学院大学のゲスト講師も務める。趣味は水泳とダイエット(?)</p>	<p>専務取締役 杉浦 猛史</p> <p>前職は旅行代理店営業。退職後、世界を旅してまわり、2001年の「9・11事件」を機に帰国。その後、当社の経営に合流。異業種からの転身にも関わらず、飛びぬけたコミュニケーション能力と長電話で事業拡大に寄与。</p>	<p>取締役 安藤 裕之</p> <p>大手印刷会社のSP営業部門にて販促業務全般に従事。その時に松山と富田に仕事を通じて出会い、奇跡的なタイミングで当社に合流。新規営業開拓とゴルフ観戦(プレイは微妙)がライフワーク。</p>
--	--	--	---	--

社員はなるべく増やさないという創業期

松山——1994年から25年も経過したなんて実感は湧かないなあ。94年と言えばWindows95の普及前だから、まだパソコンではなくワープロだよ。今の若手には文字通り「ありえない」的な状態でしょう。
富田——携帯電話もまだ高価なビジネスツールだったし、平成30年間で我々の業界も含めてビジネスシーンが激変したとホント実感するよね。
杉浦——よく、松山、杉浦の2人で創業したと思われているけど、実際のところ、僕は2001年から経営に合流したわけだけど、もちろん経営なんていう大げさなものではない。事業計画も曖昧だし、社員も我々以外に1名しかいなかった。
松山——あの頃は人を増やすのだけはやめよう、と心に誓っていた。自分たちの食いち以上の責任は取れない、そんな逃げ腰体制だったんだけどね、杉浦さんの加入で、なんか会社っぽくしていく「ヤル気」みたいなものが湧いてきた。それからいろいろ世間を見回して、ホームページくらい作らなきゃとか、事業ビジョンとか経営理念とかとりあえず打ち上げて。
杉浦——でもその浸透も共有もできていなかったよね。
松山——そう、その本当の意味がまだ理解できていなかった。
富田——僕はその頃、仕事での付き合いがあった「同業他社」だったわけだけれど、そもそも我々の業界はそんな理念経営の会社がむしろ珍しかった。仕事のスタイルも良く言えば自由、悪く言えばなかなかのブラックだったでしょ。
松山——本気で会社を何とか変えていかなくちゃ、と思うようになったのは10年たってから。まだ手探りだったけど。この「ストッパウオッチ」創刊が2004年、今までと違った暑中見舞いを作ってみたくなったから。



初めて自分たちだけのオフィスを持った年だった。それまでは間借りとか共同事務所とか、そのあたりもきつかけになって。
阪本——僕がこの会社に入ったのは東日本大震災のあった2011年、面接の日に震災で会社には行けない、電話も繋がらないという状態。よく入社できたな、ってしみじみ思う。でもその頃はなかなか社づくりになっていた。とは言っても今の1/4くらいの事業規模だったかな。
安藤——僕も取引先という立場で松山社長と知り合った。なんか一生懸命「会社づくり」に取り組んでいるな、という印象だった。まだ20人以下の社員数なのに新卒採用なんかやって。
杉浦——2008年の菊地課長が新卒第1号だね。最初は新卒採用なんて全くやり方すら分からなかった。でもなんか夢があったと思う。
松山——そう、新卒の学生がうちを選んでくれることにもすごい感謝と充実感があつた。でも、そのあとは数年間、新卒採用、苦労したね。
阪本——なかなか定着しなかった。でも何が原因なのかそれすら分からず、今の若い奴は、なんて思っていたなあ。

安藤——ウチの新卒採用は格段に進化したね。最近では協力会社さんが見学に来てくれたりする。
富田——ものすごく説明会や選考にイベント会社らしい仕掛けを取り入れたけど、これがい成家を上げたと思う。
杉浦——イベント屋のイベントが普通じゃ面白くないでしょ。ってやっとなつて気づいたわけだね。(笑)
20周年からの5年間の成果
阪本——この数年、新卒採用の成果が出ているね。レベルもかなり上がって、離職もずいぶん減ったし、お陰で平均年齢はどんどん下がって。ジェネレーションギャップを感じるなあ。
松山——20周年から5年経ったけど、この5年間は会社としてもすごく成長したと思う。社員はもちろんだけど、会社の仕組みやコンプライアンスなんか、色々取り組んだ甲斐があった。
安藤——業績面でも20周年の時に社長が立ち上げた「脱イベント」がいい感じで具体化したのではないかな。
富田——どうしたって従来の企画「コンペ中心の受注では安定的ではないし、レッドオーシャンだしね。もちろんコンペにもいい感じで勝つてこれたということも重要だけど。
安藤——この5年間で人事管理やキッズプレイスオペレーションなんか具体的な始まって一定の成果を出せたことがやっぱり大きい。でもこれ、元々はSCCの現場で培ったノウハウが上手に「2」に合致したということでしょう。文字通り「脱イベント」ということになる。

30周年に向けて
松山——5年先を狙った20周年の時の事業計画はまずまず方向性通りに来たと思う。これからはもっとスタッフアルファのブランドを創り上げていく5年間にしたい。それと新しいビジネスチャネルをどう組み立てていくかでしょう。イベントと全く違うことをするのはなく、その延長線にあるニッチな部分とか。それが今の社員が自分事として模索してくれたら最高。そんな社員のマインドづくりが一番大切でかつ難い。
杉浦——我々は業務に携わるだけではなく会社づくりにより力を入れていくことが大事だね。採用、教育、ブランディング。このへんのベクトルを合わせて取り組んでいく事が次の課題だと思う。
阪本——自分の立場から言わせて貰えばやはり財務の安定化。月ごとに波があるのではなく月々安定した売上が見えてくると次の計画がしやすいでしょう。まあ、そう上手くはいかないだろうけれど。
富田——そこはイベント業界共通のウィークポイントだと思う。だからこそ、そういう意味でも新業態は必要なんだ。
安藤——若いスタッフからそういう「勢い」みたいなものが盛り上がってくるようにしたいね。
松山——5年後、30歳代、40歳代が中心の若い発想の新経営陣ができたら面白くなる。そして、そんな会社づくりを僕はするべきだよな。



事業推進室

岩田 彩花
飛び抜けた
探求心と行動力

松永 佳澄
ただではへこたれない
雑草根性

服部 磨衣子
大胆不敵な推進力

瀬崎 彩乃
アートで培った
審美眼

管理部

佐野 マリナ
先読みする数値
管理力

菊地 元気
内勤だけでない
フットワークの軽さ

阪本 明裕
経験と運の強さ

山田 優佳
曲がったことが
大嫌い

顧問

毛利 裕一
幅広い知識と
深い経験

代表取締役社長
松山 洋介

これぞB型!
溢れ出るアイデアと
速度感



魅せます!
25年の
真価。

スタッフアルファメンバー
それぞれの
「真価」とは?

法人ソリューション部

下重 晟伸
クオリティへのプライド
と品質意識

菊地 このみ
本番に手配物が
揃った瞬間が幸せ

富田 真吾
限界をつくらない

三野 佳音
飴と鞭で鍛えられた
不屈の精神!

大平 宏光
関わる全ての人を
笑顔にする熱さ

流通プロモーション部

木戸 彩乃
(頭の) 瞬発力・
率先力・推察力

齋藤 加奈
どんな秘密も引き
出せる聞き上手

中山 瑞貴
一瞬の記憶力と
臨機応変対応力

安藤 裕之
人たらし!
スルッと開拓
新規得意先

松山 創
NOと言える
日本人

木村 春香
2年目らしからぬ
冷静さと経験値

ウェディングディスプレイ事業部

石田 萌
接客バカ

大城 達也
お客様に対する
接客力・対応力

小池 智子
本番では
緊張しない

金田 恵美子
深層筋では
負けない体

セールスプロモーション部

大月 康弘
抜群な対応力と
抱き続ける向上心

関本 蒼唯
どこまでも走れる
体力!

松永 望咲
誰にも負けない
レスポンスの速さ

田中 里穂
よくも悪くも鈍感力

杉浦 猛史
Noと言わない
営業力

クルーマネジメント部

熊木 圭司
ゴールを伝える
オリエン魂

秋吉 恭平
温和篤厚

岩寄 光
ある意味ポジティブ!
忍耐力

笠井 大輔
見せる的確な
敏腕対応

木村 将太
子供を和ませ
癒しキャラ

宮澤 淳
おもちゃで何でも
作れる創造力

フェアリーズ事業部

菅原 千聖
なんでも全力!

城 菜々実
対子供の話題量
の多さ

中村 真子
どんな困難も
乗り越える
気力と気合

立林 夕佳
柔軟な接客力と
ゆるキャラ愛

会社の未来を創る! 事業推進室誕生

本年4月、新たに事業推進室が設立された。この部署は、事業領域拡大のため、中長期的な新規事業の開発を主眼に置いている。例えば、新卒説明会に関する事業。当社の新卒採用におけるノウハウを活かした新たなイベントコンサルティング事業を計画。現在はマーケティングを行うなど、着々と計画を進めている。また、イベント会社ならではの演出・構成力を活かした切り口の映像制作事業など、イベント制作から派生した新たな取り組みを見据えている。さらに、社長直属のプロジェクトとして社内の全部署の業務をピンポイントで特任するなど既存業務もいっつつ、日々、新規事業開発に取り組んでいる。4月からスタートしたばかりの事業推進室。「脱イベント」を目指し、さらに邁進していきたい。



「シニア人材起用」の取り組みが『中央公論』誌にて紹介

当社が以前より取り組んでいるシニア活用が中央公論に取り上げられた。雇用システム改革が叫ばれる数年前から取り組んでいる当社のシニア活用。令和の時代に入り、年金問題が噴出し、いかに生涯現役であるかが求められる時代にまさにマッチした取り組みと自負している。中央公論には「定年消滅 人生100年をどう動かす」をテーマに、当社を取材先として選択していただいた。私たち現役世代は父親世代のシニアに敬意をもって業務の指示をし、シニアは自分たちの持っているスキルを現役世代へ継承し、社会貢献として業務に取り組む。中央公論に取り上げられた事は、当社にとってもモチベーションの上がる出来事だ。



才気煥発

▽いよいよオリンピック、パラリンピックまで1年を切りました。ちょうど来年の今頃に沿道ではマラソンの応援の人垣ができていくことになるが、流石にこの猛暑は日本人として海外からの訪問客を迎え入れるについてどうかと思ってしまう。開催中は約1千万人の訪日外国人があるという。単純計算して東京都の人口が倍近くに膨れ上がるということだろう。▽大手企業各社では交通規制やテレワークなどの実証実験を進めておりまさに1年前のり

ハーサルがいよいよ動き出した感じだ。そんな中、暑さ対策の試みとしてもミストエリアや冷感タオルの配布などの活動も実験的に動いており、おかげさまで弊社にもそのお手伝いのお声がかかっている。▽実は私は前回の東京オリンピックを母に抱かれて観戦している。もちろん記憶にはないが当時は10月、当たり前だがこのような猛暑ではなかったはず。なぜ8月にしたかはどうもスポーツ閑散期だからというアメリカのテレビ業界を中心とした放映権の都合

らしいが、そもそもそんな逆境で世界記録が出るのかと疑問に思ってしまう。▽新国立競技場には屋外でも暑さ対策が施されているらしく風抜けが良く、直射を遮断した工夫がされているという。さすが日本の建築技術と世界から評価をいただこう。まさに暑さ対策が万全の東京大会である。我々イベント業界もいよいよ大会運営に向けてお呼びが掛る時期だが、意外と暑さに弱いことは世界にバレないように準備と心構えが必要かもしれない。

史上最大の室内遊び場大盛況!

当社で今最も勢いになっているキッズプレイスオペレーション事業。今まで5店舗の室内遊び場の運営を手掛けてきたが、今年4月、6店舗目となる新たな遊び場が群馬県前橋市の商業施設に誕生した。何と言ってもその最大の特徴は、県内最大級となる780㎡もの広大な敷地面積である。オープン後、地元紙や情報誌に大きく取り上げられ、県内の子育て世代から注目を集めた。週末には多くの子どもたちで賑わいを見せており、特に悪天候の日は入場まで1時間待ちを記録することもある。さらには、本遊び場の来場者によって、施設の駐車場が全て埋まってしまい、他テナント従業員から「車を止める場所がない!」という声があがる事態も発生。人気の原因は、まずブランドのステータスだろう。我々のミッションはそのブランドの良さを最大限に引き出し、さらに具現化していくことである。2年後、3年後、このブランド店舗が20店舗、30店舗と増えていくことに、社員一同ワクワクと心躍らせている。



「30秒で読める!」会社案内リニューアル

25周年を記念して会社案内をリニューアル。30秒で読める、コンセプトに作った本冊子には多くの「数字」が出てくる。その一部をご紹介します。多くの方が驚かれるのは「残業時間月平均 10.5 時間」だ。水曜日のノー残業デーはもとより、「残業は悪」という社内風紀の徹底、残業を抑えて効率化を図った社員に贈られる「スマートワーカー」制度など、業界の風習にとられないままに働き方「改革」を行なっている。当初懸念された作業クオリティのダウンも、作業効率を上げることで解決しており、結果、業績は上がっている。そんな我々が作期手がけた現場数は「1355件」。一日平均にして3件以上の現場が稼働している計算になる。その運営を可能とするのが「212名」いる自社スタッフ、アルファクルーである。その他にも、当社の様々な実態が数字で表されている。機会があれば、是非手に取ってご確認いただきたい。



ストップウォッチ次月号表紙をかけた SAC総選挙開催!

今回、32号を迎えましたスタッフアルファの広報誌「ストップウォッチ」ですが、毎号表紙は雑誌のパロディ、裏表紙は映画やドラマのフライヤーのパロディとして、発刊してまいりました。毎回、テーマに応じて、社員がモデルとなってきましたが、この度は25周年を記念して、次号の表紙の座をかけた総選挙を実施いたします。「営業担当だから!」「一緒にお仕事してみたい!」「ポスターが可愛い、面白いから!」など投票理由は何でも歓迎! 本誌裏表紙のポスターをご覧ください、気に入った1名に是非ご投票ください!



こちらからWeb投票をお願いします!